

医療の安全システム - リスク管理(平時対応システム)と危機管理(有事対応システム)

連盟・学会理事長 酒井亮二

日本人の安全に対する関心度は世界一です。その理由は、安全は細かなことの積み重ねによって達成されること、日本は四季折々の細やかな風景が存在すること、そしてそれを反映して平安時代の絵画に始まる世界最高の Fine Art という繊細な美の技術を千年の流れの中に有すること、狭い国土に多数の自然災害地獄が存在しその克服が必要であること、などが考えられます。日本人ほど安全と安心に強い要求を有する民族は他になく、それが世界一の品質工学を産み、日本製品への世界的な信頼を得てきました。日本は世界超一流の安全保全国として、安全に対する国民の要求度がきわめて高いものです。

さて、医療での安全活動は、事故という有事での対応と、事故予防という平素での対応の2種類に分けられます。有事対応は危機管理(Crisis Management)と称され、平時対応はリスク管理(Risk Management)と称されます。

医療安全の危機管理(クライシス・マネジメント)には、行政処分、刑事裁判、民事裁判、裁判外紛争処理(ADR)、第3者事故調査委員会、院内事故調査委員会、院内事故対策委員会などがあり、紛争対応システムと総称されます。これらに共通する性質を指摘するとすれば、医療人と患者・家族のコミュニケーションです。ミス・コミュニケーションにより、事故は当事者間で甚大な危機・障害を発生しています。この理由から、近年に医学におけるコミュニケーション文化の育成が叫ばれています。

医療安全のリスク管理(リスク・マネジメント)には、事故シミュレーションと職員の安全教育、ヒューマンファクターによる事故予防対策の向上、IT などを利用した情報処理システムの促進、などがありますが、これらは平素からの全員参加が原則です。

以上の諸観点からすると、2008年9月に開催される医薬品安全管理研修会のプログラムは、リスク管理からの話題が中心となっています。これは、医薬品の危機管理システムについては2007年度の研修会で重点的に取り上げられたことによります。

他方、2008年11月の歯科医療安全研修会のプログラムは、厚労省の指示に準じ、危機管理からの話題が中心です。

いずれも、それぞれの分野でリスク管理や危機管理を代表する日本の方々による社会人教育であり、これらは安全に対する強い要望を有する日本文化の向上に大いに貢献する、と確信しました。